

第8回 流山グリーンフェスティバル

今年で8回目を迎える「流山グリーンフェスティバル」が、平成25年4月29日（月）から5月4日（土）まで流山おおたかの森駅南口都市広場で開催されました。

主催は流山グリーンフェスティバル実行委員会。この実行委員会には、恵小百合教授、土屋薫准教授、吉永明弘講師（現代社会学科）、残間義和教授、清水一彦教授（マス・コミュニケーション学科）、廣田有里准教授（情報文化学科）が参画したほか、学生の仮想広告代理店『エド・アド』から社長の三浦美由さん（マス・コミュニケーション学科3年）が参画しました。

今回のフェスティバルのテーマは「森雪姫」。オリジナルストーリーで紡がれる童話の世界が、広場に花園や階段アートとなって出現した、という設定。この花園のデザインをしたのは情報文化学科の学生たちで、約4,500個の花や野菜の苗でこの花園を実際に作り上げたのは現代社会学科の学生たちです。そして、階段アートのデザイ

ンと実作業を担当したのがエド・アドとマス・コミュニケーション学科の学生たち。会場を彩るメインテーマを本学の学生たちが作り上げました。

また、展示コーナーでは、土屋ゼミが木の実を使ったドライフラワー無料体験を行い、子どもから大人まで大人気。恵ゼミでは流山市から委託を受けて江戸川大学が行っている流山市内の熱環境調査等について市民の方々にわかりやすく説明を行いました。

その他、5月4日（土）に行われたイベントではマス・コミュニケーション学科の女子学生3人が司会を務めました。

ももとは、残間教授が流山市の広報協力員として市の広報に助言を行っている関係で、第1回流山グリーンフェスティバル実行委員会では委員長を務め、江戸川大学と流山グリーンフェスティバルの関係はスタートしました。次第に学内の協力者も増え、市民と大学との良い接点の場ともなっています。



花や野菜の苗で花園を創る



完成した階段アートで（エド・アドメンバー）



森雪姫の花園には秘密がいっぱい



木の実を使ったドライフラワー無料体験コーナー



会場の様子



流山グリーンフェスティバルに参加した先生と学生たち



流山市の熱環境調査結果を市民の方に説明する



イベントの司会を務めた学生たち



エド・アド社長三浦さん

流山グリーンフェスティバルを終えて

今回エド・アドでは、ステップアートのデザインを担当しました。昨年の先輩たちとの経験を生かし、流山市の方と何度も話し合い、デザインを完成させました。エド・アドの中でも、デザインの案を出し合い、流山グリーンフェスティバルのコンセプトに合うようなデザインを一生懸命考えました。2月から案を考え、OKが出たのは、本当にギリギリでした。できたときの達成感忘れられません。実際にそのデザインされたシールを階段に貼り、1つの絵にするのも今回はデザインが細かったため、昨年の倍の時間かかりました。できた時、見に来てくれた人達から、「すごいね！これあなたたちがやったの？きれいだね！」など声をかけていただいたときは、本当にやってよかったなと思いました。流山グリーンフェスティバル当日も会場を担当し、イベントの運営の大変さを学ばせていただきました。また機会があれば、企画運営させていただきたいと思っています。これからもエド・アドは新しいことにチャレンジしていきます。

三浦美由（マス・コミュニケーション学科3年）